

吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

日本財団助成事業

令和6年度

夏季吟道大学

「笹川平和財団太平洋島嶼国ウィークス」
レセプションで吟剣詩舞を公演

吟剣詩舞の故郷

「屋島」(香川県)

表紙の詩

汪倫に贈る李白

李白舟に乗つて将に行かんと欲す

忽ち聞く岸上踏歌の声

桃花潭水深さ千尺

及ばず汪倫が我を送るの情に

9
令和6年
長月

夏季吟道大学時間割

7月20日(土)

時間	項目／講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35~12:55	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
13:00~13:30	〈開講式〉
13:30~13:50	一、吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革／沼崎富会長
13:50~14:20	二、審査規定の解説とコンクール審査の実態／徳田寿風副会長
14:20~14:35	三、公益財団の組織運営と指導者の役割／池内賢二専務理事
14:35~15:10	〈休憩〉【チェックイン】
15:15~16:45	四、漢詩鑑賞／漢詩家 鷺野正明先生
17:00~17:45	〈夕食〉
18:00~19:30	五、声の衛生／医師 角田晃一先生
19:40~20:40	六、班別座談会
20:45~21:45	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰室・就寝〉

7月21日(日)

時間	項目／講師
6:00	〈起床〉
6:20~6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00~8:00	七、意見交換会 一吟詠の普及振興をめぐってー
8:00~8:50	〈朝食〉
9:00~9:10	【チェックアウト】班別に手荷物整理後、会議場集合
9:15~9:25	〈休憩〉
9:25~10:15	八、吟詠研修／徳田寿風副会長
10:20~11:50	九、吟詠講習／池田嶺煌先生
11:50~12:30	〈昼食〉
12:30~14:20	十、研修吟詠
14:20~14:30	〈記念撮影〉
14:30~14:50	〈閉講式〉
14:50~15:00	事務局通達

指導者として 吟道を究める 2日間



受講生代表として、沼崎学長に「誓いのことば」を述べる黒石龍光1班班長

7月20日(土)
漢詩や声について
貴重な講義も

昭和44年に山梨県本栖湖の全国モーターボート競走会連合会本栖研修所で第1回が開催されて以来、湘南国際村センター、成田東武ホテルエポルトと場所を移してきた夏季吟道大学。コロナ禍により3年間中断、令和4年度から公益社団法人日本モーターボート選手会が運営・管理する愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催となりました。

〈開講式〉

今回は日本全国から39名が参加。開講式に先立ち、浅田聖謙、石川春海、大山宗鵬各少壮吟士と地元の鳥居翔鵬参与の4人を世話役として

日本財団助成事業

日時：令和6年7月20日(土)～21日(日)
場所：愛知県碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

令和6年度 夏季吟道大学開催

コロナ禍以降の「昨年より、規模を縮小して愛知県の勤労青少年水上スポーツセンターにて開催されている「夏季吟道大学」。日本全国から吟詠の指導者が集い、さらに深く吟詠について学ぶとともに、同じ道を歩む吟友と交流を深めるという貴重な研修の場。今年も39人の受講生が一堂に会し、さまざまな講義や吟詠研修に没頭する貴重な2日間を過ごしました。



たくさんのパネルを用いて「声の衛生」について講義する国立病院機構東京医療センターの角田晃一先生

紹介。その世話役の「受講生起立！礼！直れ！着席！」というかけ声とともに式や講義が開催されます。

まず早淵鯉将副会長が「一つでも多くのことを学び、地元に戻ってから同じ道を歩む方々と共有していただければと願います」と「開講のことば」。国歌斉唱と財団会詩吟に続き、沼崎富会長が「新たな多くの発見ができることへの喜びとともに、初心を見つめ直すいい機会であると考えております」と挨拶。続いて黒石龍光1班班長が「受講生誓いのことば」。さらに石堂光聖子2班班長の先導によ

り、「桂林荘雜詠諸生に示す その二」の記念合吟を行いました。

〈二時限目～五時限目〉

13時半から二時限目開始。三時限目まで例年と同じ項目で約1時間にわたり開催。チェックインに続き、四時限目は鷺野正明先生による「漢詩鑑賞」。十十二支の説明後、入声など中国語の発音を解説。四季の詩の紹介へつなげました。

夕食後の五時限目は国立病院機構東京医療センター耳鼻咽喉科・音声言語外科の角田晃一先生が「声の衛生」について講義。喉の役割から誤

嚥の予防、音声の生成などを豊富なパネルを使って解説。詩吟が健康長寿に役立つことを力説しました。

〈班別座談会〉

19時40分から「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」をテーマに班別座談会。各班に世話役も参加し、熱心に意見を交換。その内容は班長・副班長がまとめて翌日の「意見交換会」で発表(8ページ参照)。その後翌朝のために点呼・とり舟体操の練習を行い、22時に1日目のカリキュラムを終了、ようやく就寝となりました。

講師と講義の内容

(二時限目は審査規定の解説とコンクール審査の実態、六時限目は班別座談会、七時限目は意見交換会、十時限目は研修吟詠)



〈一時限目〉沼崎 富会長

吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革
昭和43年10月に設立された日本吟剣詩舞道振興会の規範である吟剣詩舞道憲章を解説



〈三時限目〉池内賢二専務理事

公益財団の組織運営と指導者の役割
水上スポーツセンターの説明に始まり、公益財団の定義などを専務理事の立場から説明



〈四時限目〉鷺野正明先生(漢詩家)

漢詩鑑賞
「季節を感じて」と題し、暦の説明から四季の詩として杜牧『清明』、白居易『夜雪』などを解説



〈五時限目〉角田晃一先生(医師)

声の衛生
喉の説明から誤嚥の予防、声帯萎縮改善対策等、実践的な内容をパネルを用いて解説



〈八時限目〉徳田寿風副会長

吟詠研修
「美しく明瞭な発声発音について」では、口と舌のストレッチやパマタカラ体操など実技を指導



〈九時限目〉池田嶺煌先生

吟詠講義
徳川景山『大楠公』を元にして読みや母音などを解説。後半は研修吟詠と歩き方なども指導した

令和6年度夏季吟道大学受講者一覧 ◎=班長、○=副班長

地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
東日本	杉田 國陽	3年	女	日本國風流詩吟吟舞会 國仁会 指導部長
東日本	石井 錦文	3年	女	錦水流錦洲会 総師範
東日本	根岸 玉桜	5年	女	玉峰流玉峰吟詠会 副会長
中部	鳥居 美鵬○	3年	女	朝翠流朝道吟詠会 副理事長
近畿	黒石 龍光◎	12年	男	岳精流日本吟院大阪岳精会 副会長
近畿	山内 水峰	12年	男	詩道楠水吟詠会 師範
中国	森 尊英	5年	女	吟道哲尊流 若葉支部 理事
四国	山本 紫煌	5年	女	吟道紫虹吟社 婦人部長
九州	伊藤光興子	7年	女	淡窓伝光霊流日本詩道会 統師範
九州	松田 岳秀	11年	女	(公社)日本詩吟学院認可 岳陽会 事務局長

地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
東日本	横山 龍精○	10年	女	岳精流日本吟院 宗嗣
東日本	栗本 溪将	5年	男	詩吟溪月流 江北吟詠会 青年部長
中部	飯干 光峰	4年	女	不朽流吟詠会 研修副部長
中部	杉村 淳夢心	11年	女	吟詠澆心流芽生会 副会長
中部	梶谷 里鳳	5年	女	紫洲流日本吟会福井本部 講師
近畿	山田 龍滄	8年	女	岳精流日本吟院大阪岳精会 広報編集部 部長
近畿	西野 水由	13年	女	詩道楠水吟詠会 常任理事
中国	横田 山堂	5年	男	関西吟詩文化協会 哲滄会殿山支部長
四国	片山 辰風	3年	男	臥風流吟詠会 普及部 常任理事
九州	石堂光聖子◎	15年	女	淡窓伝光霊流佐伯詩道会 副会長

地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
東日本	荒崎 紫有○	7年	女	紫虹流吟詠詩舞道会 高席師範
東日本	澤田 心輝	4年	女	岳心流関東地区本部理事及び執行部役員
中部	秋山 瑠峰	3年	女	吟詠澆心流芽生会 常任理事
中部	徳川 芳穂◎	5年	女	吟道関心流福井県本部 範師
近畿	山田 龍兼	10年	男	岳精流日本吟院大阪岳精会 事業部・広報編集部 副部長
近畿	荒木 碧泉	5年	女	(一社)哲泉流日本吟詠協会 滋賀県支部連合 担当講師
中国	野崎 勵山	5年	男	水真流聖山吟詠会琉光支部
四国	吉田 恵峰	6年	女	渭山流吟剣詩舞道至道会 青年副部長
九州	鍛冶尾凌峰	8年	男	秀峰堂吟剣詩舞会 助講

地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
東日本	荒崎 紫春○	6年	女	紫虹流吟詠詩舞道会 高席師範
東日本	森川 緑洲◎	7年	男	吟道錦洲流緑洲会 会長
中部	平野 江岳	6年	女	(公社)日本詩吟学院認可 鶴峰岳風会 常任理事
中部	片桐 由風	3年	女	(公社)日本詩吟学院認可 北陸岳水会 理事
中部	大辻 玉季	3年	女	関西吟詩文化協会 正洲会 理事
近畿	山野 水嬌	15年	女	詩道楠水吟詠会 常任理事
中国	片山 粹鵬	7年	女	朝翠流師範吟詠会 講師
四国	二神 麟風	4年	男	清吟堂吟友会 地区本部長 新居浜ブロック会長
四国	山地 麗莉	5年	女	清吟堂吟友会 香川地区事務局長
九州	山口 梅蕉	10年	男	詩吟道日本吟声流 師範

受講者の
半分の20人が
「研修吟詠」に挑戦



池田嶺煌先生は「跳ね上げるように詠う」として、身振り手振りを交えて受講生を指導

これを楽しみにしてやってきたという人も多い「研修吟詠」。全国吟詠コンクール課題吟の中から任意の吟題を選び、一人ずつ前に立って吟詠。沼崎会長と徳田副会長が講評を述べます。九時限目の池田嶺煌先生も研修を実施。指名されたり挙手したりした3人が池田先生の批評を受けるとともに、十時限目の研修も参加しました。

今回は「少壮吟士準候補」として8月に同じ場所で開催される研修会に参加する荒崎紫有・荒崎紫春姉妹と横山龍精さんの3人も参加。そのうち両方の研修を受けた横山さんは「十時限目の研修も予定通り『従軍行』で受けられるというので、九時限目はジャンルの違う『佳賓好主』を希望しました。『緊張しい』なので先生方や皆様の前で吟ずることに慣れないと思って挙手しましたが、やはりあの場所に立つというんなものが飛んでしまいます(笑)。思いがけない指摘もあって勉強になりました」とのこと。

また十時限目だけ参加した荒崎紫有さんは「強い吟が多いので綺麗な吟『佳賓好主』を選んでみました。ご指摘のあった表現の仕方など非常に納得いたしました。来月の「少壮吟士準候補研修会」はまた別の吟題で頑張ります」と感想を述べました。



2日目の朝に行われる吟道大学名物の「とり舟体操」。石川春海世話役の指導のもと、前夜の練習は各班副班長が、本番は班長が音頭をとった

7月21日(日)
最後は2時間近い研修吟詠
【意見交換会】

前夜の班別座談会での議論の内容を、各班の班長・副班長が発表。内容は下の囲み内を参照。

【八時限目】

徳田寿風副会長による吟詠研修。まず「美しく明瞭な発声発音について」として、声は心身の状態を表す、明瞭な発音で印象が変わる、母音がポイントなどと講義。次に「ワンランク上の吟詠をめざして」として、吟詠の本質は語りの素晴らしさ、アクセントにも音程がある、あいまいな母音が生み出す豊かな情感など、実践的な吟詠上の研修を行いました。

【九時限目】

聖吟士会の池田嶺煌会長による吟詠講義。『大楠公』を例にとり、読み、母音、音程、発声、詩心について

講義。後半は受講生の中から希望者を募って研修吟詠を実施しました(左ページ写真参照)。

【十時限目】

受講生の希望者20人に対して行う吟詠講習。他の受講生への批評も勉強になる、吟道大学のメイン課題です。講評は沼崎会長、徳田副会長が行いましたが、「のぼすところで下がるクセがあるので注意すること」、「母音の響きが悪く、本数が高すぎる感じ」など具体的な指導が行われました。やり直した結果修正されたケースも多く、実のある内容となりました(左ページコラム参照)。

【閉講式】

全員で記念撮影をして閉講式。沼崎会長が「さらなる吟詠力の向上とともに、貴会員へのご指導にあたっていただきますよう期待します」と学長挨拶。修了証書の授与後、森川緑洲4班班長が感謝の言葉を述べ、徳田副会長が「ここで得られた体験を地元に戻って還元していただきますようお願いします」と閉講のことばを述べ、猛暑の中で開催された2日間の幕を閉じました。

誓いを新たに:班長の声



第1班班長:黒石龍光さん

「私どもの副会長に勧められ、井の中の蛙にならぬようにと思い参加しました。雰囲気はすごくよく勉強になりましたが、開会式での誓いのことばは緊張しました(笑)。帰ってからもできるだけ情宣活動をしたいです」



第2班班長:石堂光聖子さん

「徳田先生などにご指導いただくことはないのですがぜひ参加したい。1日目夜に修了証書をいただく練習しただけで泣きそうになりました(笑)。驚野先生の講義は漢詩の背景を知ったらもっと詩吟を楽しめると痛感しました」



第3班班長:徳川芳穂さん

「流派でも会員が減っている、皆さんどのような方策をとっているのか学び、皆にも伝えたいと思って来ました。角田先生の講義は私も喉には苦渋してきたので、こういうトレーニングもあるのだなと勉強になりました」



第4班班長:森川緑洲さん

「吟歴は長いですが勉強らしい勉強をしてこなかったもので、もう一度挑戦してみようと思って参加しました。さまざまな講義も聞きましてあらためて吟詠は深いなと思い知らされたので、生涯の友としようと思再確認しました」



【班別座談会討議テーマ】

「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」

各班の班長、副班長が前夜の座談会で交わされた意見をまとめて発表。役員がそれらの内容に対して答えました。1班の黒石龍光班長は「若い指導者の育成が大事。YouTubeなどを活用したい」。2班の石堂光聖子班長は「カラオケボックスにお願いして詩吟を置いてもらう、学校で詩吟教室を開かせてもらう」。3班の荒崎紫有副班長は「構成吟により歴史的な背景も説明する」などと発表。

4班の荒崎紫春副班長は対策を箇条書きにまとめ、①高齢者に続けてもらえるよう楽しく親睦を深める②少人数のところは合同練習会をする③夏祭りに参加するなど吟剣詩舞を知ってもらう④詩吟離れをなくするため今いる人を大切に⑤SNSなどを活用して若い世代や外国人に周知する、などとなりました。

それに対し池内専務理事は「かつて3百万人と言われた詩吟人口は10万人くらいに減少。余裕ができた年齢層にアピールしたい」、徳田副会長は「詩吟を知らない人が多いので、私のリサیتالは無料にし、両手に詩吟をしていない友達を連れてきてほしいと会員さんに頼んでいます」と意見を述べました。